

ISSN 0029-0726

西日泌尿 第72巻増刊号
2010年10月20日発行
1990年6月1日第3種郵便物認可

西日本 泌尿器科

第72巻 増刊号 (2010年10月)

西日本総会特集号

西 日 泌 尿

Nishinihon J. Urol.

日本泌尿器科学会西日本支部



The 62nd Western Section Meeting of
Japanese Urological Association

第62回 日本泌尿器科学会 西日本総会

21世紀の新しい泌尿器科学に向けて
— 技術革新と医療安全の融和 —

Toward New Urology in the 21st Century
— Harmony of Innovative Technology and Medical Safety —

プログラム

会期 2010年 11月4日(木)～ 6日(土)

会場 かごしま県民交流センター

〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町14-50

TEL: 099-221-6600(代表) FAX: 099-221-6640

城山観光ホテル

〒890-8586 鹿児島県鹿児島市新照院町41番1号

TEL: 099-224-2211(代表) FAX: 099-224-2222

会長 中川 昌之

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科腫瘍学講座泌尿器科学分野教授)

学会事務局

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科腫瘍学講座泌尿器科学分野

〒890-8544 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

TEL: 099-275-5395 FAX: 099-265-9727

mail: juaw62@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp (第62回西日本総会専用)

第62回日本泌尿器科学会西日本総会の開催にあたって

第62回日本泌尿器科学会西日本総会
会 長 中川 昌之
(鹿児島大学泌尿器科教授)



この度、第62回日本泌尿器科学会西日本総会を19年ぶりに鹿児島市で開催させていただくことになり大変光栄に存じております。今回の総会では「21世紀の新しい泌尿器科学に向けて一技術革新と医療安全の融和一」をテーマに挙げさせていただきました。

昨今の医療技術の進歩にはめざましいものがあります。身近なものでは術中の止血切開装置や高画質・高解像度で可動域の広がった軟性鏡、さらにはda Vinciなどの手術用ロボットがあります。手術自体が安全かつ低侵襲化の方向に向かうことは自然な流れであり今後も一層加速していくと思います。さらに、内視鏡補助下小切開手術(ミニマム創手術)や鏡視下手術の発展形態としての単孔手術、さらに体外からアクセスしやすい胃や膣などに窓を作成してそこから体内臓器の手術を行うNOTESまでが試行される時代となっています。このように私が入局した30年前から考えると医療機器の劇的な進歩や周辺環境の充実・整備が実現しています。しかしこれらの革新的技術がどんなに進んでも、医療安全が確保されないままの医療はありえません。医療安全の確保は多面的に達成されるべきものであり、上記で述べたロボット手術などはその方策のひとつに過ぎません。現在ではほとんどの病院が医療安全に多くのエネルギーを注いで体制の整備を進めていますが医療事故は減っていません。現在、我が国での医療事故死者数は年間約10,000名(1日30名)と推計されており、交通事故死より多いとされています。医療事故が減らない要因として、医療機器の高度化、教育の問題、マンパワー不足、個人あたりの業務量の増加など複数の因子が絡み合っています。今回の総会では、泌尿器科手術をはじめとした低侵襲手術の現状を振り返り、いかに安全を担保しつつさらに発展・普及できるのか、これらの医療の技術革新を支えるための安全教育をどうすべきなのかについて皆様と一緒に討論できればと考えています。その他、安全教育で医療業界の先を走っている航空業界のCRM(Crew Resource Management)についても元JAL機長の小林氏にご講演いただく予定です。また子供の事故を科学的に分析しその対策を提言いただいたり、21世紀の泌尿器科領域で最も注目されるものの中から腎臓の再生医療の最新動向や異種移植の研究の最先端につきましてもご講演をいただく予定です。

さて鹿児島市は九州最南端に位置し、気候も温暖ですが人情もあたたかい街です。学会の後には、昨年から活発化しております桜島の噴煙を見ながらゆっくりと温泉につかり、焼酎で日頃の疲れを取っていただければ幸いです。また時間があれば、種子島・屋久島・奄美大島などの離島の豊かな自然をも堪能していただければと存じます。多数の皆さまのご来鹿をお待ちいたしております。

第62回日本泌尿器科学会 西日本総会

11月4日(木)

保険委員会	10:20～12:20	城山観光ホテル4F カトリア
理 事 会	12:30～14:30	城山観光ホテル4F オーキッド
評 議 員 会	14:50～15:50	城山観光ホテル4F ガレリア
前夜祭特別企画	16:00～18:00	城山観光ホテル4F パールホール天平

11月5日(金)

開 会 式	8:40～8:50	第1会場(かごしま県民交流センター 県民ホール)
学 術 集 会	8:50～18:00	かごしま県民交流センター
IJU セミナー	14:50～15:50	第5会場(かごしま県民交流センター 大研修室3)
総 会	13:30～14:00	第1会場(かごしま県民交流センター 県民ホール)
卒後教育プログラム	16:30～18:00	第2会場(かごしま県民交流センター 中ホール)
会員懇親会	19:00～21:00	城山観光ホテル4F エメラルドホール

11月6日(土)

学術集会	8:30～15:00	かごしま県民交流センター
卒後教育プログラム	13:30～15:00	第2会場(かごしま県民交流センター 中ホール)
閉会式・ヤングウロロジストリサーチコンテスト優秀賞発表・一般演題学術奨励賞発表	15:00～15:20	第1会場(かごしま県民交流センター 県民ホール)
市民公開講座	16:00～17:40	第1会場(かごしま県民交流センター 県民ホール)

第62回日本泌尿器科学会 西日本総会事務局

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科腫瘍学講座泌尿器科学分野

〒890-8544 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

TEL: 099-275-5395 FAX: 099-265-9727

mail: juaw62@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp

URL: <http://www.juaw62.umin.jp/>

学会参加・発表要項

学会参加のみなさまへ

1. 受付ならびに入場について

学会参加受付・学会参加認定は下記の時間帯、場所で行います。

11月4日(木) 13:00～17:00 城山観光ホテル 4階パールホール天平前コーナー

11月5日(金) 8:30～17:00 かがしま県民交流センター 2階

11月6日(土) 8:15～15:00 かがしま県民交流センター 2階

受付で参加費12,000円をお納め下さい。

ネームカード(参加証)に氏名・所属をご記入の上、常時着用して下さい。また、学会参加認定を行いますので、会員カードをご持参ください。詳細は9ページをご覧ください。

2. プログラム・抄録集

西日本泌尿器科の会員には抄録集(西日本泌尿器科 西日本総会特集号)を郵送しています。抄録集は当日忘れずにご持参下さい。

ご購入希望の方には、1部3,000円で販売いたします。

なお、ホームページにて抄録部分を除いたプログラムのpdfファイルがダウンロードできます。

3. 会員懇親会

日 時: 11月5日(金) 19:00より

会 場: 城山観光ホテル4階 エメラルドホール

会 費: 学会参加費に含まれます。懇親会ご入場の際には学会参加証のご着用をお願いいたします。

シャトルバス: かがしま県民交流センターから懇親会会場まで17:30頃から順次シャトルバスを運行いたします。乗り場はP.18のフロア図をご参照ください。

4. 会場では携帯電話をマナーモードに設定してください。

5. クローク: 11月4日はホテルのクロークをご利用ください。5、6日はかがしま県民交流センター2階に設置いたします。

6. 第1会場県民ホール内は飲食禁止となっておりますので、ご注意ください。

7. かがしま県民交流センター2階総合受付付近に参加者用の無線LANスポットを設けます。 有線LANコーナーはありませんのでご了承ください。

8. 駐車場: かがしま県民交流センターの駐車場は数に限りがございます。なるべく公共交通機関等をご利用ください。

1. 発表時間

各セッションの発表時間は下記のとおりになっております。

セッション分類	発表時間	質疑応答
シンポジウム パネルディスカッション ワークショップ	個別にご連絡いたします。	
一般演題口演	5分	2分
一般演題ポスター	3分	2分

2. 発表形式

発表は、コンピュータ（PowerPoint）を使用した発表形式になります。

発表用のコンピュータは Windows XP.Vista のみ事務局でご用意いたしますが、コンピュータ持込による発表も可能です。

発表用のデータをメディアでお持ち頂く場合は、USB フラッシュメモリー又は CD-ROM のみとなります。

3. データ形式

事務局にて用意するコンピュータは、Windows XP.Vista、ソフトは PowerPoint2000, 2002, 2003, 2007、解像度は 1024 × 768 です。

アニメーション・動画の制限はありませんが、PowerPoint に貼り付けている動画・音声は、Windows Media Player/Mac Quick Time Player で再生できるように作成してください。
（拡張子 .wmv 推奨）

PowerPoint のファイルと動画のファイルは同じフォルダにお入れ下さい。また、バックアップ用としてご自身のノートパソコンもご持参いただくことをお勧めいたします。

ファイル名は、「演題番号_演者名_PowerPoint バージョン.ppt」としてください。

（例：A1_山田太郎_w2003.ppt）

お持込データによるウイルス感染の事例がありますので、最新のウイルス駆除ソフトでチェックしてください。

持ち込まれるメディアには、当日発表されるデータ以外入れないようにしてください。

学術集会前に必ず、他のコンピュータにて動作確認をお願いいたします。

4. コンピュータ持込の注意事項

OS は、Windows（Windows2000 以降）または、Macintosh（MacOS9 以降）の双方に対応いたします。

動画及び画像が表示できるかご確認をお願いいたします。本体の液晶画面に表示されても、実際に外部出力されない場合があります。

特に、作成されたデータがお持込いただくコンピュータと別の場合にはご注意ください。

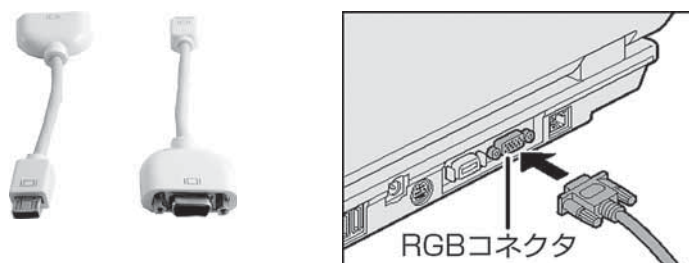
スクリーンセ이버ならびに省電力設定は予め解除してください。

コンピュータにパスワードが必要な場合はコンピュータに明記してください。

バッテリーによる発表はできませんので必ず電源ケーブルのご用意をお願いします。

万一のトラブルの為に、バックアップのご用意をお願いいたします。

お持込いただくコンピュータは D-sub15pin のモニター出力端子が必要となります。(図参照)
D-sub15pin 以外のコンピュータをお持込いただく時は、必ず変換コネクタをご用意ください。



5. 発 表

当日は、発表30分前までに PC センターにてデータ・コンピュータ受付及び確認を必ず行ってください。
(ご不明な点がございましたら、専任スタッフが対応いたします)

発表時は、舞台上に PowerPoint, Keynote 用のキーパッドとマウス・ディスプレイがありますのでご自身で操作をお願いいたします。

今回、発表者ツールを使用した発表には対応しておりません。

発表後は、会場内 PC 席にて、コンピュータをお受け取りください。

データお持込による演者の方は PC センターにて受付の際データを複写しメディアをご返却いたしますが、バックアップ用としてお持ちください。複写した発表データは、発表終了後消去いたします。

ポスター発表について

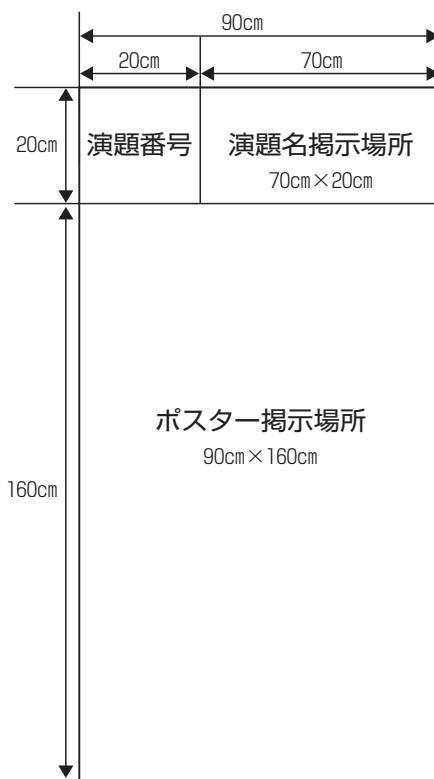
パネルの大きさは下図の通りです。演題番号は事務局で準備しますが、演題名・所属・演者名はご自身でご用意ください。

ポスターを掲示する際は、会場前のポスター受付も必ずお済ませください。

演者は、発表時間10分前までに必ず各自のポスターセッションの場所にお集まりください。

ポスターの撤去は各自の責任で行ってください。撤去時間後、引き取りのないポスターは、事務局で処分させていただきますので、ご了承ください。

- ポスターサイズ：幅90cm、高さ160cm以内
上記サイズ内に収まる大きさのものであれば、様式は問いません。
- ポスターを作成される際には、演題名、演者名、所属を必ず明記するようにし、発表内容を記載して下さい。



座長の先生方へ

口演セッション座長の先生は、担当セッション開始20分前までに次座長席へ、ポスターセッション座長の先生は10分前までに所定の場所にお越しください。

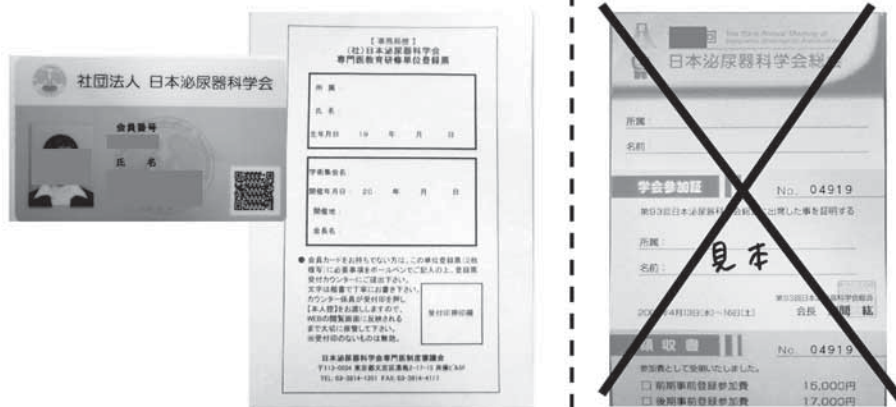
第62回日本泌尿器科学会西日本総会（鹿児島）参加単位認定方法について

社団法人 日本泌尿器科学会

理事長 内 藤 誠 二
専門医制度審議会委員長 藤 澤 正 人

ご存じの通り2009年4月の総会から、総会および支部総会（東部・中部・西日本）の参加単位は、会場の「参加単位登録カウンター」における会員カードのバーコード読み取りまたは単位登録票記入によって登録され、WEB上で確認できるデータのみが認定されます。後日、参加証等の提出による単位認定は、いかなる理由であっても認められませんので、会員の皆様にはくれぐれもご注意くださいようお願い致します。

**総会会場「参加単位登録カウンター」での会員カード読み取り、
または登録票記入による登録のみ認定する。
参加証貼付による申請は不可。**



◆ 注意事項

- 単位登録済みの参加証は、後日 WEB 上で単位加算が確認できるまで保管しておいて下さい。
- 総会終了後に学会事務局へご連絡頂いても、登録できません。
- 卒後教育プログラム・指導医教育コースの受講／講師の記録または筆頭発表を、総会への参加証明とすることはできません。
- 会員カードを持参なさらなかった場合は、身分証明証（運転免許証等）による本人確認を行った上で、単位登録票による登録を行います。身分証の呈示がない場合は、単位登録はできません。

現在、会員カードをお持ちでない方へ

会員カードの作製にはお時間がかかりますので、今からお申し込み頂きましても西日本総会には間に合いませんが、会員カードをお持ちでない場合でも、総会会期中に必ず「参加単位登録カウンター」にお越し下さいますようお願い申し上げます。

第62回日本泌尿器科学会西日本総会（鹿児島）における 「卒後教育プログラム」受講申込方法のご案内

社団法人 日本泌尿器科学会

理 事 長 内 藤 誠 二

教育委員長 中 川 昌 之

卒後教育プログラムの受講申込方法は下記の通りとなっておりますので、ご注意下さい。

①申し込み前に、必ず「総会参加受付」を済ませる。

※参加単位が必要な方は、会期中に「参加単位登録カウンター」での単位登録も必ず行って下さい。

②受講を希望する講座のチケットを購入する。（1講座2,000円）

場 所：参加受付附近の「卒後教育プログラム受講申込デスク」にて。

時 間：プログラム1 11月5日（金） 8:30～16:55

プログラム2 11月5日（金） 8:30～17:00

11月6日（土） 8:15～13:55

※いかなる場合もチケットの再発行、交換および返金には応じられません。

※会場の定員に達した時点で、販売は終了致します。

※各受講会場前での受講申し込みは出来ません。

③入場時は会員カードとチケットを提示し、バーコードチェックを受ける。

※チケットの提示がない場合は、理由を問わず入場不可とします。

※会員カード不所持の場合は、入場前に「登録票」の記入が必要となり、身分証の提示（運転免許証等）が求められますのでご注意下さい。

※受講希望者は、遅くとも講義開始30分後までに入場して下さい。

④退場時は、バーコードチェックを受ける。

※「登録票」の場合は、受講印の押印を受けて下さい。

◆講義中、自身の発表等のために途中退出した場合は再入場できませんので、チケット購入の際には十分お気を付け下さい。

◆受講チケットでは、受講を証明することはできません。

指導医教育コース認定プログラム

指導医教育コース認定プログラムを、下記の通り実施いたします。

*受講記録が必要な方は日本泌尿器科学会の会員カードが必要です。

指導医教育コース認定プログラム1

シンポジウム1

「次世代の外科治療」

日 時：11月5日（金）9:45～11:25

会 場：第1会場（かごしま県民交流センター 県民ホール）

指導医教育コース認定プログラム2

ワークショップ

「手術指導と安全確保」

日 時：11月6日（土）10:10～12:10

会 場：第1会場（かごしま県民交流センター 県民ホール）

受付場所：会場入り口前で受付を行います。受講記録が必要な先生は、受付にて必ず会員カードを提示し、バーコードチェックを受けてください。「受講記録控」を発行いたします。

受付時間：各コースとも講演の30分前から受け付けを開始し、講演開始15分後に締め切ります。締め切り後、バーコードチェックは行いませんので、受講登録はされませんが、入場は自由です。

受 講：無料

*日本泌尿器科学会指導医の申請・更新には申請・更新までの5年間に指導医教育プログラムを1コース以上受講していることが必要です。

日 時：11月6日（土）13:20～14:35

会 場：第1会場 かがしま県民交流センター 県民ホール

40歳未満の若手泌尿器科医により優れた研究業績をご発表いただきます。あらかじめ英文抄録による審査で選出された5演題をご発表いただきます。発表時間12分、討論3分です。

本セッションは英語によるセッションです。

審査により、優秀な発表に対して閉会式にて表彰いたします。

なお、学会終了後、最優秀賞の方には、論文作成（原著に限らず、総説でも可）を依頼します。

一般演題に対する学術奨励賞

本総会にて発表された一般演題の中から優秀な発表に対し学術奨励賞を閉会式にて授与し、表彰いたします。受賞演題は推薦演題として西日本泌尿器科への論文掲載を依頼します。

IJU セミナー

“Educational Session for Reviewers”

英文機関誌 International Journal of Urology (IJU) のセミナーを行います。今回は“Educational Session for Reviewers”と題して、IJU の査読者向けの教育セミナーを開催します。編集幹事による Best Practice、（基本的な査読方法から、よくある間違いや問題点、良い査読、悪い査読、査読の仕方）そして、IJU Reviewer of the Year 2009 を受賞された先生の中から、査読者の立場からの体験談などを発表していただきます。査読者のみならず、投稿者の皆様にも IJU がどのように査読されているのかを知っていただく良い機会になると思います。当日はご質問やご意見も承ります。是非奮ってご参加ください。

日 時：11月5日（金）14:50～15:50

会 場：かがしま県民交流センター大研修室3（第5会場）

講 師：日本泌尿器科学会 編集委員編集幹事 横溝 晃 先生

ゲストスピーカー：産業医科大学医学部泌尿器科 濱砂 良一 先生

定 員：50名 事前登録不要

※当日参加された方には IJU 特製 USB メモリを差し上げます。



<http://wileyonlinelibrary.com/journal/iju>

女医が語る泌尿器科の魅力

女子医学生、研修医に多様な女性医師のモデル像を提示し、ライフサイクルの中で様々な支援を利用しつつ、医師を続けていくことを決意していただくための企画です。

座 長：東京女子医科大学東医療センター 泌尿器科講師 巴 ひかる

日 時：11月6日（土）10:00～11:00

会 場：第6会場（かごしま県民交流センター4階 大研修室4）

当日は、巴先生を始め、4名の先生方にご講演していただく予定です。女子医学生、研修医が対象ですが、会員の先生方で興味のある方はどうぞご参加下さい。

なお、終了後30分程度の懇談会を行います。

機器展示・書籍展示

日 時：11月5日（金）9:00～17:00

11月6日（土）9:00～15:30

会 場：かごしま県民交流センター 大ホール（2F）

教育セミナーのご案内

11月5日(金) 12:30～13:20

教育セミナー1

第2会場：かごしま県民交流センター 中ホール

[日本人における BPH/OAB 治療戦略 — ASSIST 試験からの知見 —]

座長：金武 洋（長崎大学名誉教授）

演者：関 成人（九州大学大学院医学研究院泌尿器科学分野准教授）

（共催：アステラス製薬株式会社）

教育セミナー2

第3会場：かごしま県民交流センター 大研修室1(3F)

[ハイリスク前立腺癌の腫瘍生物学と治療戦略]

座長：那須 保友（岡山大学病院新医療研究開発センター教授）

演者：大山 力（弘前大学大学院泌尿器科学講座教授）

（共催：日本新薬株式会社）

教育セミナー3

第4会場：かごしま県民交流センター 大研修室2(3F)

[腎細胞癌の治療戦略2010]

座長：賀本 敏行（宮崎大学医学部泌尿器科教授）

演者：富田 善彦（山形大学 医学部 腎泌尿器外科学分野教授）

（共催：バイエル薬品株式会社）

教育セミナー4

第5会場：かごしま県民交流センター 大研修室3(4F)

[転移性腎細胞癌治療への新たなアプローチ — mTOR 阻害剤をどう使用するか —]

座長：魚住 二郎（佐賀大学医学部泌尿器科 教授）

演者：植田 健（千葉県がんセンター 泌尿器科 部長）

（共催：ノバルティスファーマ株式会社）

教育セミナー5

第6会場：かごしま県民交流センター 大研修室4(4F)

[過活動膀胱の新治療戦略]

座長：松本 哲朗（産業医科大学 泌尿器科 教授）

演者：井川 靖彦（東京大学大学院医学系研究科 コンチネンス医学講座 特任教授）

（共催：杏林製薬株式会社）

11月6日(土) 12:20～13:10

教育セミナー6

第2会場：かごしま県民交流センター 中ホール

〔筋層非浸潤性膀胱癌の治療戦略〕

座長：小川 修（京都大学大学院医学研究科器官外科学講座 泌尿器科学 教授）

演者：樋之津史郎（京都大学大学院医学研究科 薬剤疫学分野 准教授）

（共催：サノフィ・アベンティス株式会社）

教育セミナー7

第3会場：かごしま県民交流センター 大研修室1(3F)

〔進行性腎細胞癌に対する薬物療法 ― 免疫療法に対する期待 ―〕

座長：笥 善行（香川大学医学部泌尿器科教授）

演者：篠原 信雄（北海道大学大学院医学研究科腎泌尿器外科 准教授）

（共催：塩野義製薬株式会社）

教育セミナー8

第4会場：かごしま県民交流センター 大研修室2(3F)

〔転移性腎癌治療の現況と展望 ― 分子標的治療の新たな展開 ―〕

座長：金山 博臣（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 先端医療創生科学講座 泌尿器科学分野 教授）

演者：松山 豪泰（山口大医学部泌尿器科教授）

（共催：ファイザー株式会社）

教育セミナー9

第5会場：かごしま県民交流センター 大研修室3(4F)

〔PSA、前立腺体積を考慮した男性過活動膀胱の治療戦略：
前立腺肥大症と前立腺癌の比較からわかったこと〕

座長：酒井 英樹（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 腎泌尿器病態学教授）

演者：増田 均（東京医科歯科大学医学部泌尿器科学講師）

（共催：第一三共株式会社、キッセイ薬品工業株式会社）

教育セミナー10

第6会場：かごしま県民交流センター 大研修室4(4F)

〔BPH 治療の新戦略 ～併用療法の有用性～〕

座長：内藤 誠二（九州大学大学院医学研究院 泌尿器科学分野 教授）

演者：高橋 悟（日本大学医学部泌尿器科学系 主任教授）

（共催：グラクソ・スミスクライン株式会社、大鵬薬品工業株式会社）

会場アクセス図



かごしま県民交流センターへのアクセス

鹿児島空港より

■ 空港連絡バス

鹿児島空港からリムジンバス（高速）……約40分
金生町下車徒歩7分または天文館下車徒歩15分
（バスによって停車するバス停が違いますのでご注意ください。）

■ タクシー料金の目安

普通車で鹿児島市内まで 10,000円～11,000円
※道路状況により料金は変わる場合があります。
あらかじめご了承ください。

JR 鹿児島中央駅より

■ J R [鹿児島本線上り、日豊本線上り]
…… 鹿児島駅下車 徒歩10分

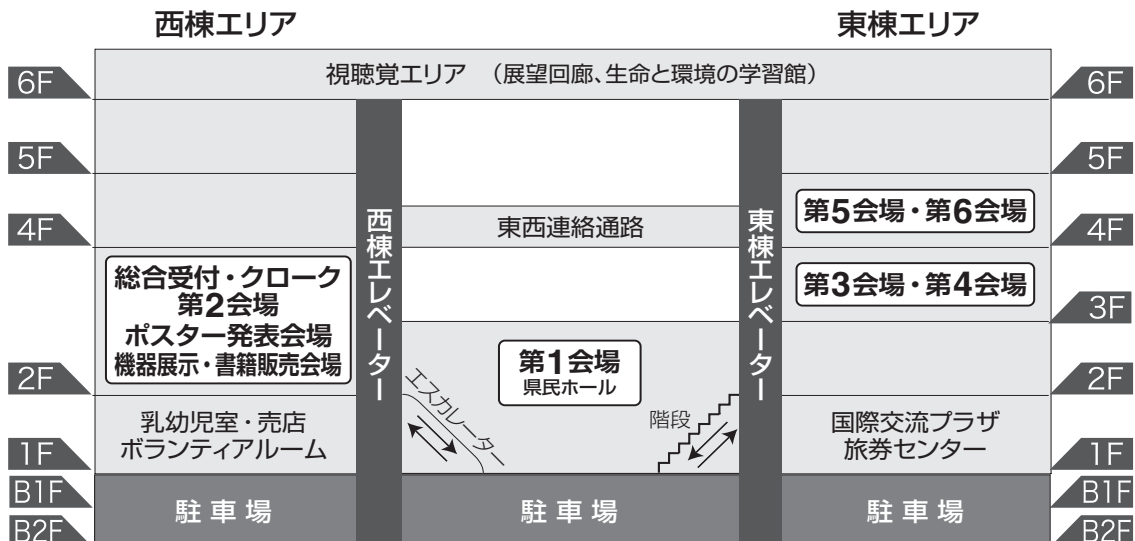
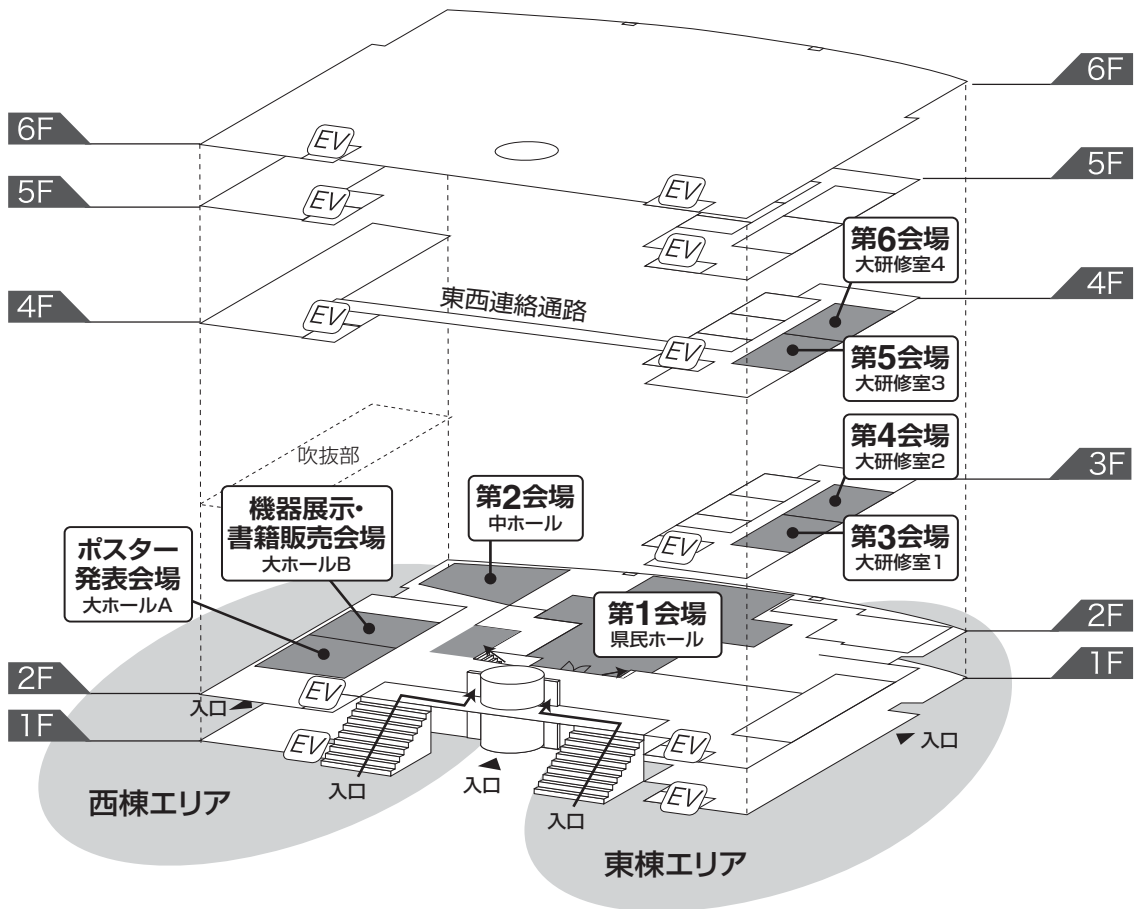
■ 市 電 [鹿児島駅行き]
…… 水族館口下車 徒歩4分

■ バス [鹿児島市営バス]
2 番線、3 番線、6 番線、11 番線
…… 水族館口下車 徒歩5分

※11月5日（金）17：30ごろより順次大会会場（かごしま県民交流センター）から懇親会会場（城山観光ホテル）まで専用シャトルバスを運行いたします。

会場案内図

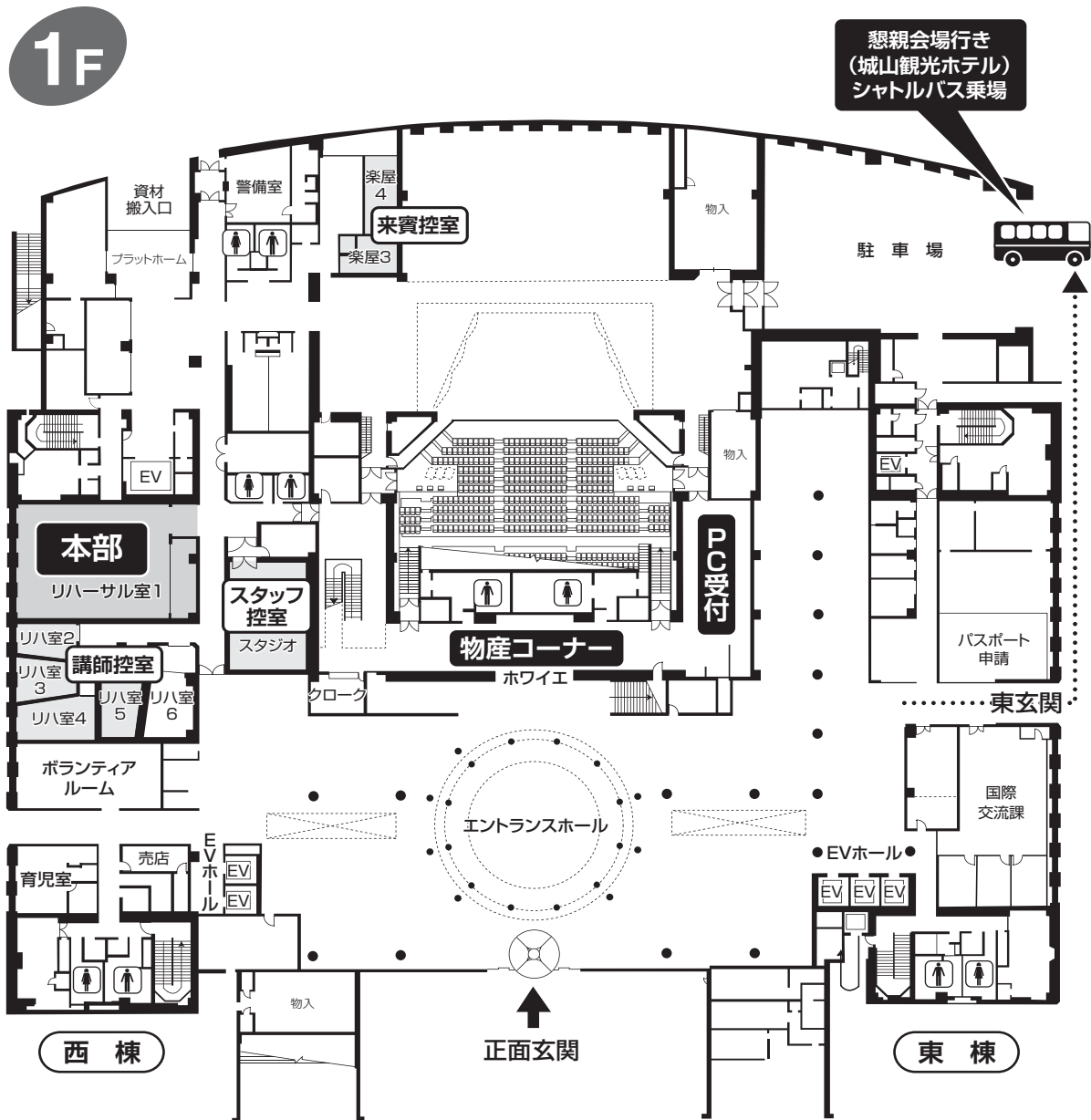
かごしま県民交流センター



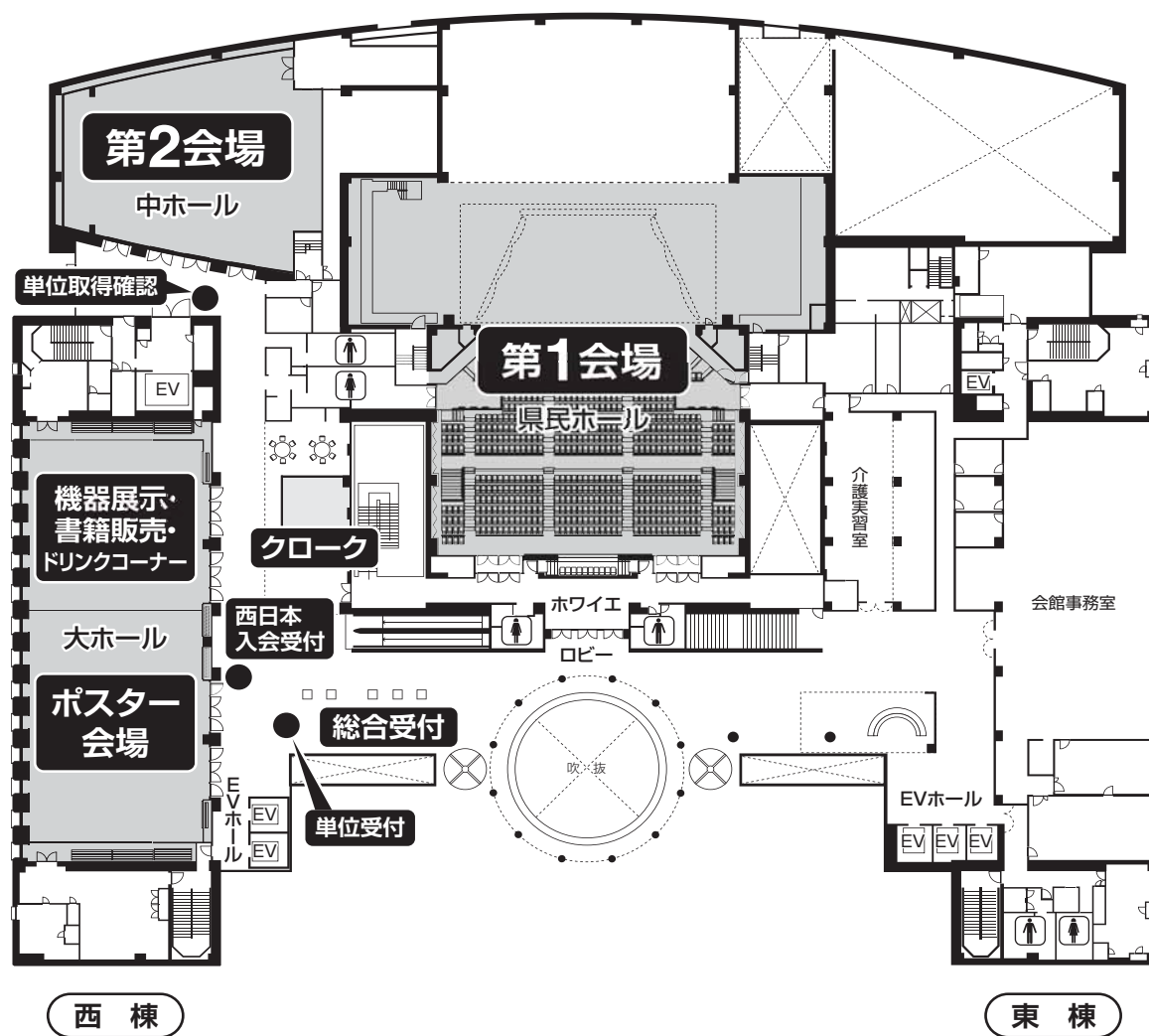
※かごしま県民交流センターには「西棟・東棟エリア」がございます。
 エリア間の移動は 1、2階と4階の連絡通路をご利用ください。
 各階のエレベーター乗り口に東西のどちらかが明記してございます。

フロア図

かごしま県民交流センター

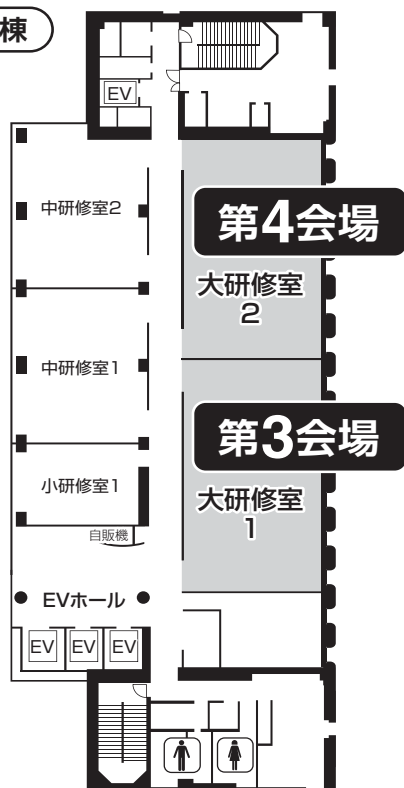


2F



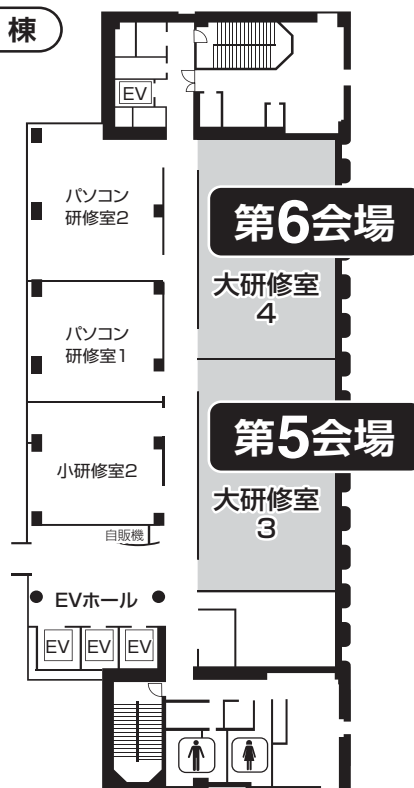
3F

東棟



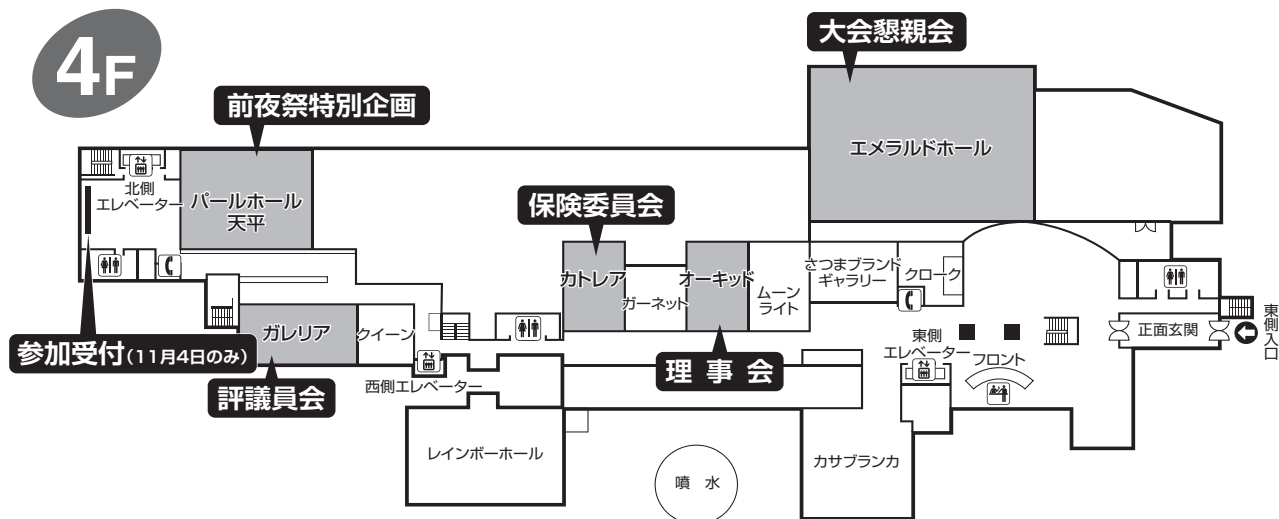
4F

東棟



城山観光ホテル

4F



日 程 表

1日目 2010年 11月4日(木) 城山観光ホテル 4F

	カトリア	オーキッド	ガレリア	天 平
10:00				
11:00	10:20~12:20 保険委員会			
12:00				
13:00		12:30~14:30 理 事 会		
14:00				
15:00			14:50~15:50 評 議 員 会	
16:00				16:00~17:00 前夜祭特別企画 1 演繹と帰納 座長：横山 雅好 演者：小松 秀樹
17:00				17:00~18:00 前夜祭特別企画 2 坂本龍馬と薩摩 座長：井川 幹夫 演者：原口 泉
18:00				
19:00				
20:00				
21:00				

2日目

2010年 11月5日(金) かごしま県民交流センター

	第1会場 県民ホール	第2会場 中ホール	第3会場 大研修室1(3F)	第4会場 大研修室2(3F)
8:30				
9:00	8:40~8:50 開 会 式 8:50~9:40 招請講演Ⅰ 子どもの事故の科学的分析に基づく傷害予防 座長：笈 善行 演者：西田佳史	8:50~9:40 一般演題 1 前立腺癌 1	8:50~9:30 一般演題 7 腎不全・腎移植	8:50~9:50 一般演題 13 Female Urology
10:00	9:45~11:25 シンポジウム1 次世代の外科治療 座長：田中正利 金山博臣 指導医教育コース	9:40~10:20 一般演題 2 前立腺癌 2 10:20~11:05 一般演題 3 前立腺癌 3	9:30~10:10 一般演題 8 性機能障害 10:10~10:50 一般演題 9 小児泌尿器科	9:50~10:30 一般演題 14 下部尿路機能障害
11:00				
12:00	11:30~12:20 招請講演Ⅱ 航空界のCRM(Crew Resource Management) 座長：中川昌之 演者：小林宏之			
13:00		12:30~13:20 教育セミナー 1 共催：アステラス製薬	12:30~13:20 教育セミナー 2 共催：日本新薬	12:30~13:20 教育セミナー 3 共催：バイエル薬品
14:00	13:30~14:00 総 会			
15:00	14:00~14:50 教育講演Ⅰ 遺伝子組換え異種臓器：独自の免疫寛容誘導療法による異種移植の臨床応用への試み 座長：公文裕巳 演者：山田和彦 14:50~15:40 特別講演Ⅰ Endothelin Axis and Prostate Cancer: Bench to Bedside 座長：村井 勝 演者：Joel B. Nelson	14:00~14:50 一般演題 4 尿路上皮腫瘍 1 14:50~15:35 一般演題 5 尿路上皮腫瘍 2 15:35~16:20 一般演題 6 尿路上皮腫瘍 3	14:00~14:40 一般演題 10 前立腺肥大症 1 14:40~15:25 一般演題 11 前立腺肥大症 2 15:25~16:25 一般演題 12 副腎・後腹膜 その他	14:00~14:50 一般演題 15 結 石 14:50~15:40 一般演題 16 結石・Endourology・腹腔鏡 15:40~16:25 一般演題 17 感 染 症
16:00	15:50~16:40 特別講演Ⅱ 米国での泌尿器科医療の最新の動き 座長：内藤誠二 演者：篠原克人 協賛：武田薬品			
17:00	16:40~18:00 シンポジウム2 泌尿器科領域の新しい診断技術 座長：永井 敦 三股浩光	16:30~18:00 卒後教育プログラム1 膀胱癌診療ガイドライン 主任講師：大園誠一郎 (浜松医科大学)		
18:00				
19:00~21:00	大会懇親会 (城山観光ホテル エメラルドホール)			

プログラム

1日目 11月4日(木)

城山観光ホテル4F 天平

前夜祭特別企画1 16:00～17:00

座長：横山 雅好(愛媛大学)

[演繹と帰納]

小松 秀樹 亀田総合病院 副院長

前夜祭特別企画2 17:00～18:00

座長：井川 幹夫(島根大学)

[坂本龍馬と薩摩]

原口 泉 鹿児島大学 法文学部教授

2日目 11月5日(金)

第1会場：かごしま県民交流センター 県民ホール

開 会 式 8:40～8:50

招請講演Ⅰ 8:50～9:40

座長：寛 善行(香川大学)

[子どもの事故の科学的分析に基づく傷害予防]

西田 佳史 産業技術総合研究所 デジタルヒューマン工学研究センター 傷害予防工学研究チーム

シンポジウム1 9:45～11:25

[次世代の外科治療] (指導医教育コース認定プログラム)

座長：田中 正利(福岡大学)
金山 博臣(徳島大学)

S1-1 外科領域の NOTES と単孔式腹腔鏡下手術の現状と今後

安田 一弘 大分大学第一外科

S1-2 ロボット補助下前立腺全摘除術

秦野 直 東京医科大学泌尿器科

S1-3 UCSF における前立腺がんに対する Cryosurgery と Brachytherapy の現状

篠原 克人 カリフォルニア大学サンフランシスコ校 泌尿器科

S1-4 腎がんに対する CT ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)の現状と将来

那須 保友 岡山大学病院 新医療研究開発センター

招請講演Ⅱ 11:30～12:20

座長：中川 昌之(鹿児島大学)

[航空界の CRM (Crew Resource Management)]

小林 宏之 日本航空機操縦士協会 副会長 元日本航空機長

総 会 13:30～14:00

〔 遺伝子組換え異種臓器：
独自の免疫寛容誘導療法による異種移植の臨床応用への試み 〕

山田 和彦 鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センター 教授

特別講演 I 14:50～15:40

座長：村井 勝（社会福祉法人 親善福祉協会 国際親善総合病院 院長）

〔 Endothelin Axis and Prostate Cancer : Bench to Bedside 〕

Joel B. Nelson, MD Frederic N. Schwenker Professor Chairman, Department of Urology
University of Pittsburgh School of Medicine Pittsburgh, Pennsylvania, USA

特別講演 II 15:50～16:40

座長：内藤 誠二（九州大学大学院医学研究院 泌尿器科学分野 教授）

〔 米国での泌尿器科医療の最新の動き 〕

篠原 克人 カリフォルニア大学サンフランシスコ校 泌尿器科教授

シンポジウム 2 16:40～18:00

〔 泌尿器科領域の新しい診断技術 〕

座長：永井 敦（川崎医科大学）
三股 浩光（大分大学）

S2-1 CT および MRI の最新技術

福倉 良彦 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻腫瘍学講座
放射線診断治療学教室

S2-2 仮想海綿体内視鏡

川西 泰夫 高松赤十字病院

S2-3 前立腺癌の新しい局在診断

ー バルーン圧迫法による組織弾性超音波と MRI による Real time virtual sonography ー

堤 雅一 日立総合病院 泌尿器科

S2-4 泌尿器内視鏡の将来技術

松本 和孝 オリンパス メディカルシステムズ株式会社 開発企画本部 開発戦略部

前夜祭特別企画

1 演繹と帰納
小松 秀樹
亀田総合病院

2 坂本龍馬と薩摩
原口 泉
鹿児島大学法文学部

演繹と帰納



小松 秀樹 亀田総合病院 副院長

学 歴

1968年（昭和43年）3月 香川県立観音寺第一高等学校卒業
 1974年（昭和49年）9月 東京大学医学部医学科卒業

職 歴

1974年（昭和49年）12月 東京大学医学部附属病院泌尿器科研修医
 1975年（昭和50年）3月 東京大学医学部泌尿器科、文部技官
 1976年（昭和51年）3月 東京都立豊島病院泌尿器科医師、東京都主事
 1977年（昭和52年）7月 東京大学医学部附属病院分院泌尿器科、
 文部教官助手
 1978年（昭和53年）7月 東京都立駒込病院泌尿器科医師、東京都主事
 1980年（昭和55年）7月 東京通信病院泌尿器科医師、郵政技官
 1981年（昭和56年）7月 国立病院医療センター泌尿器科医師、厚生技官
 1982年（昭和57年）7月 三楽病院泌尿器科医長
 1983年（昭和58年）7月 青梅市立総合病院泌尿器科医長
 1983年（昭和58年）11月 山梨医科大学泌尿器科助教授
 1999年（平成11年）4月 虎の門病院泌尿器科部長
 2010年（平成22年）4月 亀田総合病院泌尿器科顧問
 2010年（平成22年）5月 亀田総合病院副院長

 1988年5月～12月 南カリフォルニア大学 バルセロナ大学
 2006年11月 「医療崩壊 立ち去り型サボタージュとは何か」
 （朝日新聞社）で日経 BPBizTech 図書賞を受賞

坂本龍馬と薩摩



原口 泉 鹿児島大学法文学部教授

主な経歴

米国ネブラスカ州立大学付属ハイスクールと鹿児島甲南高校卒業。東京大学文学部国史学科、同大学院修士課程修了（文学修士）。同博士課程2年を終えて（単位習得）、1979年鹿児島大学法文学部に赴任。助手、講師、助教授を経て、1998年より教授。専門は日本近世・近代史。特に東アジア諸地域とのつながりの中で、薩摩藩の歴史研究に取り組む。国内はもとより東南アジア・欧米迄各地で講演。NHK 大河ドラマ「翔ぶが如く」「琉球の風」「篤姫」の時代考証を担当。鹿児島大学では大学院（博士・修士）・学部（法文学部、農学部など）で日本社会史などの講義を担当。

＜受賞歴＞1986年第61回 NHK 放送記念日感謝状。1991年からいも交流10周年記念功労感謝状。（以上個人）1994年中国蘭州市緑化委員会榮譽証。2000年鹿児島森林管理署感謝状。2001年国際ロータリークラブ2730地区鹿児島東南ロータリークラブ表彰。第25回全国育樹祭国土緑化機構会長賞。2003年にしぎん国際財団アジア貢献賞。

公 職

鹿児島大学生涯学習教育研究センター長（H17年4月～H21年3月）兼任

鹿児島大学総合研究博物館兼務教員

鹿児島大学多島嶼圏研究センター兼務教員

鹿児島大学地域共同研究センター相談員

鹿児島大学かごしまルネッサンスアカデミー講師

鹿児島大学ボランティアサークルC部長（顧問）

鹿児島大学図書館貴重書管理委員会委員

琉球大学法文学部非常勤講師

放送大学客員教授（H17年3月まで）

国交省・奄美群島振興開発審議会委員

（財）海音寺潮五郎記念館理事（東京）

鹿児島県伝統的工芸品産業振興対策協議会委員

（財）鹿児島県文化振興財団評議員

鹿児島県国際交流活動助成金審査会委員

鹿児島県史料集刊行委員会委員（県立図書館）

鹿児島県文化財保護審議会委員

鹿児島県史料編さん委員

H20年度かごしま県民大学推進協議会委員

鹿児島県観光立県推進会議委員

かがしま食育シニアアドバイザー
 かごしまの“食”交流推進会議委員
 JA 中央会かごしまの良いい食環境県民フォーラム世話人
 鹿児島県の食を語る会幹事
 県酒造業組合青年部顧問
 錦江湾本港一本釣協業組合顧問
 人吉市まちづくり親善大使
 環霧島会議大使第1号
 霧島市行政改革推進委員会委員長
 都城中央地区まちづくり委員会副座長
 都城島津邸整備活用委員会委員長
 都城島津家文書整理委員会委員長
 志布志創年市民大学学長
 志布志市“志”エッセイコンテスト審査委員長
 志布志城史跡公園整備検討委員会委員
 曾於市学校規模適正化検討委員会委員
 曾於市教育振興基本計画策定委員会委員
 KKB 鹿児島放送番組審議会委員長
 (財)MBC 島中文化基金評議員
 鹿児島県明るい社会づくりの会会長
 エコライフ鹿児島副理事長(NPO 法人)
 県青年海外協力隊を支援する会理事
 長島文化財団評議員
 指宿・浜崎太平次ヤマキの会顧問
 磯の歴史と文化を活かす会幹事
 NPO さつま理事
 さつま琵琶普及の会副会長
 鹿児島サウサンプトン・アバディーン友好協会会長
 鹿児島キルターズ協会顧問
 NPO 法人大隅照葉樹林原生林の会顧問
 薩摩金山蔵金山私学校学長
 鹿児島県商店街まちづくりリーダー育成・派遣事業委員長
 文部科学省平成20年度「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業
 第2回九州コミュニティスクール推進会議委員

経済産業省九州経済局平成19年度起業家教育普及事業鹿児島市起業家教育推進協議会委員
 全国「川の日」ワークショップ審査員
 薩摩義士顕彰会顧問
 指宿菜の花館高齢者中央大学講師
 天皇陛下ご即位二十年鹿児島奉祝会実行委員
 NPO 法人かごしま探検の会副理事長
 かごしまの世界遺産を語る会会長
 映画「半次郎」制作代表発起人・時代考証
 鹿児島「町の駅」連絡協議会顧問

講演実績

シンガポール大学開学100周年記念研究発表(1989年)シンガポール
 パリ薩摩焼展フォーラム講演(2007年)パリ
 第3回・4回日米来フォーラム講演(2008年・2009年)サンフランシスコ・スタンフォード大学
 江戸・東京博物館講演(2009年)東京
 学生社会起業家研修講義(2006年)ロンドン
 北海道から沖縄県まで国内はもとより、東南アジア、欧米各地で講演

特別講演

SL-1 Endothelin Axis and Prostate Cancer: Bench to Bedside

Joel B. Nelson, MD

Frederic N. Schwentker Professor Chairman, Department of Urology
University of Pittsburgh School of Medicine Pittsburgh, Pennsylvania,
USA

SL-2 米国での泌尿器科医療の最新の動き

篠原 克人

カリフォルニア大学サンフランシスコ校 泌尿器科教授

Endothelin Axis and Prostate Cancer: Bench to Bedside

Joel B. Nelson, MD

Frederic N. Schwenker Professor Chairman, Department of Urology
University of Pittsburgh School of Medicine Pittsburgh, Pennsylvania, USA

The potent vasoconstrictor endothelin-1 (ET-1) mediates a host of cellular responses in a variety of tissues after binding to the endothelin receptors (ET_A and ET_B). Prostate cancer produces ET-1. The characteristic osteoblastic response of bone to metastatic prostate cancer has been shown to be causally related to ET-1 acting through the ET_A receptor: this contributes to the vicious cycle of prostate cancer and bone interaction. The hypothesis that the ET-1/ET_A interaction contributes to the morbidity and lethality of castration-resistant prostate cancer (CRPC) has led to clinical trials of ET_A receptor antagonists in this disease. In a phase 3 trial of atrasentan—a selective but non-specific ET_A receptor antagonist—men with bone metastases had a delay in disease progression. In a phase 2 trial (Study 6) of zibotentan—a selective and specific ET_A receptor antagonist—there was an overall survival advantage in men treated with this agent. Based on these findings, three phase 3 clinical trials of zibotentan are underway targeting distinct phases of CRPC disease progression. The largest trial, Study 15, will enroll 1500 men with non-metastatic CRPC with two primary endpoints: progression free survival and overall survival. The second trial, Study 14, is completed enrolled, and is designed to confirm the overall survival benefit from zibotentan observed in the phase 2 Study 6. The third trial, Study 33, will enroll 1044 men with metastatic CRPC who, based on disease progression, are candidates for cytotoxic chemotherapy with docetaxel. Preclinical findings have shown the ET-1/ET_A interaction to be anti-apoptotic; ET_A receptor antagonists block this effect. In Study 33, men will be randomized to receive docetaxel in combination with zibotentan or docetaxel with placebo. The primary endpoint is overall survival. In all three trials, investigators are able to use any standard therapy in addition to the study medication. Collectively, the trials of zibotentan represent the one of the largest efforts to study a new agent in CRPC



CURRICULUM VITAE

Joel Byron Nelson, M.D.

WORK ADDRESSES

University of Pittsburgh School of Medicine Department of Urology 700
Kaufmann Bldg, 3471 Fifth Ave. Pittsburgh, PA 15213-3221
(412) 692-4093 Fax (410) 692-4101

EDUCATION

- 1980-1983 BA - Philosophy, The University of Pittsburgh, Pittsburgh, Pennsylvania
- 1984-1988 MD - Northwestern University Medical School, Chicago, Illinois

TRAINING

- 1988-1989 Intern in General Surgery, Northwestern University/McGaw Medical Center, Chicago, Illinois
- 1989-1990 Resident in General Surgery, Northwestern University/McGaw Medical Center, Chicago, Illinois
- 1990-1992 Resident in Urology, Northwestern University/McGaw Medical Center, Chicago, Illinois
- 1992-1993 Leander Riba Research Fellow, Department of Urology, Northwestern University/McGaw Medical Center, Chicago, Illinois
- 1993-1994 Chief Resident in Urology, Northwestern University/McGaw Medical Center, Chicago, Illinois

EMPLOYMENT

- 1994-1999 Active, Full-time Staff in Urology, The Johns Hopkins Hospital, Baltimore, Maryland
- 1994-1996 Instructor in Urology, The Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, Maryland
- 1996-1999 Assistant Professor of Urology and Oncology, The Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, Maryland
- 1996-1999 Active, Full-time Staff in Urology, Johns Hopkins Bayview Medical Center, Baltimore, Maryland
- 1996-1999 Director, Urologic Oncology, Johns Hopkins Bayview Medical Center, Baltimore, Maryland
- 1999- Frederic N. Schwentker Professor and Chairman, Department of Urology, University of Pittsburgh School of Medicine, Pittsburgh, Pennsylvania
- 2009- Chairman, Department of Surgery, UPMC Shadyside Hospital, Pittsburgh, Pennsylvania

CERTIFICATION

- 1991-1996 License to practice medicine, State of Illinois # 036-084934
- 1995-1999 License to practice medicine, State of Maryland # D46103
- 1998-2018 Diplomate of the American Board of Urology
- 1999- License to practice medicine, State of Pennsylvania #MD-069351-L

教育講演

EL-1 遺伝子組換え異種臓器：独自の免疫寛容誘導療法による異種移植の臨床応用への試み

山田 和彦

鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センター

Transplantation Biology Research Center, MGH, HMS

EL-2 腎臓再生による抜本的腎不全治療法の開発

横尾 隆

東京慈恵会医科大学腎臓高血圧内科

DNA 医学研究所プロジェクト研究部腎臓再生研究室

遺伝子組換え異種臓器：独自の免疫寛容誘導療法による異種移植の臨床応用への試み

山田 和彦

鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センター
Transplantation Biology Research Center, MGH, HMS

末期臓器不全に対する根治的治療手段は臓器置換であり、腎・心・肝・肺などの実質臓器の置換としては、臓器移植が現実的な選択手段である。近年、手術手技、術後免疫抑制療法は著しく向上したものの、移植医療は提供臓器があって始めて成り立つ医療であり、提供臓器の不足が移植医療における深刻な問題となっている。移植先進国である米国でさえ、年間ドナー発生数は約1万例で横ばいであり、現在8万人を超える待機患者のうち約2万人が移植を受けられるに過ぎず、移植待機者数とドナー数との格差は年々増加する傾向にある。移植臓器不足の問題を解決する手段として、人工臓器による置換や、近年期待の眼が向けられている再生医療を用いたアプローチが試みられている。しかし、生体適合性の問題や、3次元構造で自己と同一の遺伝子を持つ臓器の作製までを考えると、臨床応用として定着するには多くの時間を要する。従って、免疫および感染のバリアーを克服しうるのであれば、動物の生体内で実際に機能している臓器そのものを移植する異種移植が有望な選択肢となりえる。異種移植におけるヒトへのドナーとして、繁殖性、臓器の解剖学的および生理学的な類似性、臓器のサイズ、倫理性の観点から、ブタが最適であると考えられている。しかし、霊長類はブタに対し自然抗体（特にGal糖鎖抗原に対する抗体）をもち、異種臓器移植直後に生じる超急性拒絶反応の壁が臨床応用への道を閉ざしていた。しかし、2002年に我々の共同研究者の施設でGalノックアウトブタが誕生し、更に演者が開発したドナー胸腺血管付移植の併用による免疫寛容誘導療法（2004、2006PNAS）を用いることにより、演者の研究室は超急性拒絶反応の克服、および術後細胞性・液性免疫による拒絶反応の制御に世界で初めて成功し、Galノックアウトブタからヒトへの異種腎移植において、異種移植腎が80日以上にわたり正常機能を維持するという結果（2005Nat Med）、更に平均生存日数も50日を超える成果（2009 AJT）を報告した。また、現時点では、異種移植臨床応用のFirstClinical Trialは異種豚島移植と考えられている。我々はその方向性に対応し、ブタ・サル間異種間豚島移植を開始し、異種ブタ移植豚島により糖尿病サルの血糖がほぼ2か月正常に維持されるという症例を得た（2009）。本講演では、演者独自の異種移植免疫寛容誘導法とその結果を提示し、臨床応用への道を論じる。



山田 和彦

鹿児島大学 教授

フロンティアサイエンス研究推進センター・臓器置換・異種移植外科学分野

EL

職 歴

- 1987年 日本医科大学卒業後、日本医科大学泌尿器科研修医を経て、1992年泌尿器科助手となり泌尿器科臨床医として日本泌尿器科専門医それに続き泌尿器科指導医取得。
- 1994年 渡米。ハーバード大学外科 Transplantation Biology Research Center の Research Fellow。
- 1998年 ハーバード大学外科の正式スタッフである Instructor となる。
- 2000年 ハーバード大学外科 Assistant Professor に昇進。
- 2002年 National Center である国立循環器病センター再生医療部部長として帰国。
- 2003年 研究の主テーマである異種移植の前臨床研究の進展のためハーバード大学 Transplantation Biology Research Center からの要請により、Head, Organ Transplantation Tolerance and Xenotransplantation として、ハーバード大学 Transplantation Biology Research Center に復帰。
- 2004年 ハーバード大学の Senior Faculty である、外科 Associate Professor (准教授) となる。この間2003年に世界初の異種抗原の発現をなくした遺伝子改変ブタ腎臓を霊長類へ異種移植を行い、現在まで世界で最長の異種腎臓による正常腎機能成績を持つ。
- 2006年 鹿児島大学教授。鹿児島大学フロンティアサイエンス研究センター 異種移植外科分野を率い、先端移植戦略の構築ならびに10年以内の異種移植の臨床応用を目指し、大動物を用いた前臨床移植モデルを用いた同種移植の免疫寛容誘導と異種移植実験を推進している。
- 2009年 国際異種移植学会理事 (2009-2013)

2007 - 2009年3年間 欧米国際学会の主な招待講演 INVITED PRESENTATIONS

- 2007年 May ATC 2007 Xenotransplantation Workshop (アメリカ移植学会・ワークショップ)
Sep PITA-IXA2009 Symposium Speaker : Xenotransplantation (Islet Tolerance)
(国際異種移植学会シンポジウム演者)

- 2008年 Aug International Transplant Congress (国際移植学会)
(1) Post Graduate Course 教育講演
(2) State of the Art Symposium "Xenotransplantation"
(3) Oral Session Xenotransplantation 座長
- 2009年 April 国際細胞療法学会・臓器保存学会共同開催 (シンポジウム: Tolerance)
July TTS Key Opinion Leaders Meeting 2009 (国際移植学会 Key Opinion Leader Meeting 講演)
Oct PITA-IXA2009 Symposium Speaker "Which clinical trial should start first?" (国際異種移植学会シンポジウム演者)
ATC (アメリカ移植学会異種移植 Abstract 選定委員)
- 2010年 Aug International Transplant Congress (国際移植学会)
Oral Session Xenotransplantation 座長
ATC (アメリカ移植学会異種移植 Abstract 選定副委員)
TTS (国際異種移植学会 Abstract 選定委員)

過去3年間の主な外部研究費外部研究費獲得

- 2007年から4年間: 科学基盤研究 A (代表者)
- 2007年から2年間: 科学基盤研究 B (分担者)
- 2007年11月から2年間: 外国人研究員研究費 (学術振興会) (代表者)
- 2008年9月から2年間: 地域イノベーション (経産省) (分担者)
- 2010年から3年間: 科学基盤研究 B (分担者)
- 2010年から3年間: 科学基盤研究 C (分担者)
- 2010年から3年間: 科学基盤研究 C (分担者)
- 2005年から5年間: NIH/NIAID 2P01 AI045897 - Program Project Grant
A Tolerance Approach to Xenotransplantation
PI on Project 1 (> \$ 200,000/year)
Project 1: Use of GalT-KO Vascularized Thymic Transplantation for the Induction of Xenogeneic Tolerance in Baboons

EL-2

腎臓再生による抜本的腎不全治療法の開発

横尾 隆

東京慈恵会医科大学腎臓高血圧内科
DNA 医学研究所プロジェクト研究部腎臓再生研究室

略 歴

平成3年

東京慈恵会医科大学卒業

平成6年

英国 University College London 医科大
学内科 (Leon G. Fine 教授) 留学

平成8年

博士 (医学) 取得

平成9年

慈恵医大内科学講座第二助手
同 DNA 医学研究所遺伝子治療研究部
研究員

平成19年4月

自治医科大学医学部臓器置換研究部
客員研究員 (兼務)

平成19年10月

慈恵医大 DNA 医学研究所プロジェクト
研究部腎臓再生研究室室長 (兼務)

平成20年7月

筑波大学大学院人間総合科学研究科非
常勤講師 (兼務)

10月

明治大学バイオリソース研究国際
クラスター 客員研究員 (兼務)

平成21年6月

Member of Editorial Board of
“Stem cells” 誌

平成21年10月

明治大学農学部発生工学研究室
客員研究員 (兼務)

平成22年3月

慈恵医大腎臓高血圧内科講師

これまで一度失われた腎機能の回復は不可能とされていたが、神経再生など他分野での再生研究の進歩とともに腎機能もしくは腎臓そのものの再生の可能性が再認識され、腎臓再生医療はこれまでの治療法を凌駕しうる新たな治療法としてその開発が大いに期待されている。しかし腎はその解剖学的複雑性のためか、他分野と比較し一步も二歩も遅れていることは否めない。特に腎不全はとりあえず透析により救命できるという甘えがあるためか、社会の注目度が低い分野であった。しかし近年透析医療の抱える医療経済、福祉負担、患者 QOL などの問題が危機的な状態であることが徐々に露呈し、やっと腎再生医療の機運が高まってきた。しかし透析患者のように腎臓の障害が高度で構築までも破壊されてしまう場合の腎臓再生医療は依然非現実的とされている。

その中で我々は一貫して腎臓再生にチャレンジしてきた。我々の戦略は免疫学的寛容状態の異種胎仔を臓器工場に用いるということである。つまり外来の間葉系幹細胞を中腎管の発芽する部位に注入し、成長する胎児内で培養することで、発生段階と全く同じ環境下に置き、腎臓発生時の各種因子のプログラムと全く同様の刺激を与え、腎臓まで分化させる方法を開発した。このシステムにより発育中の胎児の尿管芽の発芽部位に注入した間葉系幹細胞は、ネフロンの一部を形成し、さらに成獣ラットの大網内で成長を継続させることで尿生成能やエリスロポエチン再生能を獲得した再生腎臓に分化する。現在キメラ率の低下やブタを用いたヒトに応用可能な大きさの再生腎臓作成に向け研究を展開している。

今回の講演では、腎臓という臓器そのものの再生というチャレンジングな目標を掲げている他施設の研究をご紹介しますとともに、異種胎仔の発生プログラムを利用した再生腎移植という我々の戦略のこれまでの成果および現在展開している研究内容の一部を提示し、臨床応用に向けての問題点をまとめてみたい。

Symposium 1

次世代の外科治療

S1-1 外科領域の NOTES と単孔式腹腔鏡下手術の現状と今後

○安田 一弘、北野 正剛
大分大学第一外科

S1-2 ロボット補助下前立腺全摘除術

○秦野 直、吉岡 邦彦
東京医科大学泌尿器科

S1-3 UCSF における前立腺がんに対する Cryosurgery と Brachytherapy の現状

○篠原 克人
カリフォルニア大学サンフランシスコ校 泌尿器科

S1-4 腎がんに対する CT ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法 (RFA) の現状と将来

○那須 保友¹⁾、小林 泰之²⁾、雑賀 隆史³⁾、公文 裕巳³⁾、
郷原 英夫⁴⁾、金澤 右⁴⁾
1) 岡山大学病院 新医療研究開発センター、2) 岡山大学病院 泌尿器科、
3) 岡山大学医歯薬総合研究科 泌尿器病態学、
4) 岡山大学医歯薬総合研究科 放射線医学

S1-1

外科領域の NOTES と単孔式腹腔鏡下手術の現状と今後

○安田 一弘、北野 正剛

大分大学第一外科

NOTES と単孔式腹腔鏡下手術は外科領域における新しい低侵襲手術手技であり、腹腔鏡下手術を上回る低侵襲性と整容性を目指して開発が始まった。NOTES は Natural orifice transluminal endoscopic surgery の略で、和名は経管腔的内視鏡手術である。口や膣、肛門、尿道などから挿入した軟性内視鏡を、管腔壁を経て腹腔内に進め、診断や手術を行う手術手技である。体壁に創を作らないため、術後疼痛の軽減、創感染や創ヘルニアなどの創関連合併症の予防、手術侵襲の軽減、整容性などの利点があると考えられている。2004 年に始まった NOTES 研究は急速に進み、動物モデルによる基礎検討でさまざまな手術手技が NOTES で実現可能であることが示された後、2007 年から本格的な臨床応用が始まった。これまでに外科領域では、経胃あるいは経膣ルートからの虫垂切除術、胆嚢摘出術、胃局所切除術、結腸切除術や穿孔性十二指腸潰瘍などに対する内視鏡的全層縫合などが行われている。本邦においては、2007 年に NOTES 研究会 (Japan NOTES) が設立され、同時に臨床研究登録制度が立ち上げられた。2010 年 7 月時点での本邦における NOTES 臨床応用は、経胃的腹腔内観察が 11 例、経膣的胃局所切除術が 5 例、経膣的胆嚢摘出術が 2 例である。また、NOTES 関連手技として内視鏡・腹腔鏡併用の胃局所切除術などが 125 例に行われている。

NOTES 臨床応用は徐々に進んでいるものの、ほとんどは 1-2 本の腹腔鏡手術鉗子の補助を利用した Hybrid NOTES として行われている。そこで 1 か所の小開腹創から複数の鉗子と腹腔鏡を挿入して手術を行う単孔式腹腔鏡下手術が注目されるようになった。単孔式腹腔鏡下手術は正常臓器の切開を必要とせず、外科医が慣れた腹腔鏡の視野で従来の腹腔鏡鉗子を用いて施行できるため、現在本邦においても急速に導入が進んでいる。2010 年 3 月の時点で約 5 千例に施行されていると推定されているが、正確な症例数は日本内視鏡外科学会の第 10 回全国アンケートにより今秋明らかにされる予定である。

本シンポジウムでは外科領域における NOTES と単孔式腹腔鏡下手術の現状を紹介し、今後の展望と課題について考察する。

ロボット補助下前立腺全摘除術

○秦野 直、吉岡 邦彦

東京医科大学泌尿器科

我々は、2006年よりロボット（ダビンチ）補助下前立腺全摘除術（以下 RALP）を開始し、2010年6月までに200例を経験した。従来からの開腹による恥骨後式前立腺全摘術（以下 RRP）との比較を実際に手術をしてみた立場より述べてみたい。これまでの成績では、尿道縫合部リーク3例、尿閉3例、下腿静脈血栓症1例、吻合部狭窄1例などの合併症があるが、直腸損傷などの大きな合併症はない。輸血は自己血を3例で施行している。ロボット手術時間は20～30例で4時間前後となり、50例を超えると3時間前後となる。手術時間はRRPと大きな違いはないようである。以下、手術のステップごとにRRPとRALPを比較してみる。

膀胱と前立腺の離断：カメラを近接し膀胱の筋線維を確認しながら離断できる。近接してもカメラのブレはなく、立体視ができるので、正確な位置で切断することができる。この点では明らかにRRPより有利である。しかし触診ができないので切断部位の判定は目視に頼らざるを得ない。特に後壁の切断は経験を要する。

DVCの処理：縦方向の運針による連続縫合は側方に位置する静脈を確実に縫合できるというメリットがあるが、RRPでは正確な運針が困難であり、広く行われてはいない。RALPでは出血もなく容易に運針できる。

尿道の切断：前立腺尖部に内視鏡を近接させることにより、尿道と前立腺尖部の境目を明瞭に確認できるので、尖部を取り残す可能性は極めて少ない。後葉はより遠位まであることがあり取り残しやすい場所である。まず尿道のみをすくって切断し、ついで後葉と尿道との境界を直視下で見ながら切断する。

前立腺と直腸との剥離：しばしば針生検の後と思われる癒着を認めるが、直視下に癒着部が観察でき、鉗子や鋏の角度を自由に変えられるので、癒着部を鋭的に切断することができる。このため直腸損傷の可能性は少ないと考えられる。

勃起神経の温存：内視鏡を前立腺の近くまで移動すると、前立腺の皮膜の構造を明瞭に観察できるので、最適なレイヤーで神経を分離することが可能である。知覚がないことは神経の温存手技に障害とはならない。

膀胱尿道吻合：RALPでは直視下で連続縫合が可能である。もちろんRRPでも可能であるが、狭い空間で体外から正確に運針することは困難である。しかしRALPの場合、吻合部が画面いっぱいにはひろがり、かつ立体視できるので、正確に一定の間隔で、尿道の中央から放射線上に針をかけていくことが可能である。また針の運針も針の走行に沿って進めることができるので、尿道に無理がかかることがなく、尿道を引きちぎる可能性も少ない。尿道の正確な運針は、術後の尿失禁に密接に関連しているように思われる。

以上RALPには大きな欠点はなく優れた手術法であり保険適応になれば、急速に普及すると思われる。

G

Griesmer Adam O-042

J

Joel B. Nelson 特別講演1

K

KH Rha 招請講演3

S

Sachs David O-042

Scalea Joseph O-042

あ

相島真奈美 O-072
 青木 克徳 O-012, O-037, P-060, P-083
 青木 大勇 P-063
 青柳 俊紀 **O-010**
 赤倉功一郎 P-108
 赤坂聡一郎 O-015, P-074
 赤塚 正幸 P-034
 安芸 雅史 O-085
 秋武 正和 O-124
 明比 直樹 P-102
 浅井 聖史 S3-4, O-006, O-009
 浅田 真司 O-007
 浅沼 宏 P-021
 安次嶺 聡 O-027, P-030, P-107
 東 浩司 **YU-2**, O-012, O-037, P-060, P-083
 東 治人 O-145, S3-3
 安達 高久 **O-095**
 天野 慎二 **O-085**
 天野 裕之 P-080
 荒井 啓暢 **O-068**
 荒井 陽一 P-014
 荒川 創一 O-101
 荒木 徹 **O-055**
 新 良治 **O-002**
 有地 直子 O-031, O-060, O-107, O-109, **O-108**,
 O-114, O-118, **O-123**, O-131, O-140,
 P-068, P-091, P-101
 有村 博史 P-105

有吉 勇一 P-102
 庵地 孝嗣 O-008
 安東 栄一 O-058
 安東 聡 P-089
 安藤 忠助 **O-064**, P-009, P-056

い

飯田 勝之 **P-106**, P-057, P-085
 飯山 達雄 O-110, P-050
 井内 裕満 **P-090**
 猪川 栄興 P-100
 井川 掌 S3-5, O-030, O-121, P-047, P-081
 井川 幹夫 O-031, O-060, O-107, O-108, O-109,
 O-114, O-118, O-123, O-131, O-140,
 P-068, P-091, P-101
 井口 厚司 P-001
 井口 太郎 O-016
 井口 亮 P-018
 池上 要介 P-071
 池城 卓 O-141
 池田 篤史 O-088, P-008, P-042
 池田健一郎 O-105, **P-054**
 池田智恵子 O-121, P-047
 池田 良一 **O-073**
 池原 在 P-105
 生駒 彩 P-001
 井崎 博文 O-014, O-046, P-087
 石井 和史 O-127
 石井淳一郎 P-002
 石井 大輔 P-013
 石井 龍 O-028
 石井 信行 O-091
 石田 英樹 O-038, O-041
 石田 勝 O-098
 石田 吉樹 O-105, P-054
 石戸 則孝 O-059, O-077, O-092
 石戸谷滋人 P-014
 石原 正治 **O-089**
 泉 和良 P-025
 泉 秀明 P-014
 磯部 公一 O-011
 磯山 忠広 O-128

磯山 直仁	P-035
市川 孝治	O-059, P-079
市川 智彦	O-139, P-065
一倉 祥子	O-072
一倉 晴彦	O-021
井手迫俊彦	O-040, O-070
伊藤 明宏	P-014
伊藤 徳浩	O-039, O-142
伊藤 哲之	P-018
伊藤 英昭	O-044
伊藤 文夫	O-035
伊藤 悠亮	P-031
稲垣 裕介	O-086
稲元 輝生	O-145, S3-3
乾 政志	O-032, O-068, O-082, O-135, WS-3
井上 淳	P-097
井上 勝己	O-079
井上 啓史	O-008, O-065, O-066, O-125, P-086, P-103
井上 圭太	O-031, O-060, O-107, O-108, O-109, O-114, O-118, O-123, O-131, O-140, P-068, P-091, P-101
井上 幸治	O-071, O-090, O-143
井上 滋彦	P-085
井上 省吾	WS-4, O-003, O-018, O-131, O-132
井上 誠也	O-128
井上 享	YU-1
井上 泰	P-108
井上雄一郎	P-050
井上 洋二	P-069 , P-076
猪口 淳一	O-036 , P-019, P-027
伊野部拓治	O-033, O-099, P-061
伊波 恵	O-027, P-030 , P-107
伊夫貴直和	S3-3
今川 全晴	O-067
今里 祐之	P-006
今津 哲央	O-086
今西 賢悟	P-058
今村 隆寿	O-024
今村 亮一	P-040
入江 啓	P-002
入江慎一郎	O-005
岩井 秀憲	O-013, O-116
岩瀬 豊	P-071
岩田 隆寿	P-081

岩渕 敏久	P-053
岩村 正嗣	P-013
岩本 秀雄	WS-4, O-003, O-018, O-132, P-023
岩本 秀人	O-128

う

上田 陽一	YU-5
植田 浩介	O-083, P-012
植田 健	O-139 , P-065
上田 勉	P-044
植月 祐次	O-032
上原 慎也	WS-5, O-127, O-134
植原 秀和	P-055
上間 建造	O-014
魚住 二郎	O-076, O-104
宇高 恵子	O-110
内田 潤次	O-016
内田 洋介	O-040, O-070, O-138, P-048, P-067
内野 秀紀	O-122
内野 洋志	O-023 , P-027
内村 直尚	O-083
内山 浩一	O-133, P-094
宇野 正志	P-043
右梅 貴信	S3-3
梅津 大輔	O-087

え

江川亜希子	S3-5
額川 晋	P-043
江川 雅之	P-099
江口 賢	O-044
江越 賢一	O-139, P-065
江島 和久	O-083, P-012
枝村 康平	O-127
江藤 正俊	O-024, O-039, O-049, O-142, P-027
江夏 徳寿	O-088 , P-008, P-042
榎田 英樹	S3-1 , O-040, O-074, P-026 , P-067
江原 伸	P-064
遠藤 文康	P-053
遠藤 勇気	O-011 , P-005

お

種田 建史	O-094
逢坂 公人	P-031